

大村歌子さんを推薦する

富山八雲会事務局長
牧野弥一

大村歌子さんは、1942年中新川郡水橋町（現富山市）に生まれた。大学の文学部を卒業したあと建設会社に勤めながら、そして退職後も、郷土史、とりわけ水橋を中心とした富山の近代史研究に没頭されている。なかでも児童文学者であった大井冷光の研究や、角川源義、櫻井家などの俳諧・俳句、そして連句の研究を極められた。大村さんは富山近代史研究会や富山連句協会、大井冷光を語る会の会員でもあり、多くの著書や論考等を著している。その一端を紹介すると、郷土史に関しては水橋郷土歴史会発行の『水橋の歴史』（第1集～第5集）等の、児童文学に関しては大井冷光の作品集『天の一方より』『うまれた家 大井冷光の童話』、『マリオネット』（第1集～第3集）等の編集に当たられるとともに多くの寄稿をされた。また著書として、『櫻井家の俳諧 文器・秀甫・定爾・松甫』（2005年）、『角川源義と父祖の地』（2019年）、『馬場はるとその周辺』（2021年）等を著されている。さらに『縁 五島健三の青春』（2009年）、『縁 清き流れに 追悼広瀬龍夫』（2012年）の主編集者として出版されている。

さて、大村歌子さんは、推薦者の所属する富山八雲会設立時からの会員として、折々に会の運営に有益なサジェスチョンをいただいたが、特に小泉八雲の蔵書・ヘルン文庫を富山へ導いた馬場はるや南日3兄弟の経緯や功績について多くご教示いただいた。これらは、富山八雲会の機関誌である「へるん倶楽部」や「ニューズレター」に掲載されたほか、ホームページにも掲載された。一例を挙げると、「映像詩～へるんさんようこそ～」、「富山八雲会を楽しむ ときにつながる八雲先生」「馬場家と井上準之助のこと」「ヘルン文庫の変遷」、最近では『馬場はるものがたり』を書きつつ、「富山八雲会設立をめぐって」等がある。また、小泉八雲の作品を読む月例会の輪読では、新鮮な視点で作品の分析や解説を述べられ、これらは同じく「へるん倶楽部」に掲載されている。さらに富山八雲会の夏の有峰湖畔での例会（有峰例会）では、参加者が思い思いに読んだ句を連句としてまとめられ、自然の中で歌を詠む楽しさを紹介していただいた。（2020年）

大村さんの研究の姿勢は、出来事を単なる時系列として紹介するのではなく、そこに至った人と人との繋がりにまで目を注いでおられる点にあると思う。その目は分析的・解明的であると同時に、暖かいまなざしに満ちている。大村さんは、先に挙げたように最近（2021年3月）『馬場はるとその周辺』を上梓されたが、これは今述べた集大成であろう。大村さんはこの著作の中で、ヘルン文庫を

富山にもたらした馬場はるの生涯を詳しく述べるとともに、折々のはるの思いを始めとして、それにつながる馬場家の系譜、さらに福野・山田家、五島健三、吉田鉄郎等との関係まで解明されている。大村さんは実際の文献や古文書等に当たられるのはもちろんだが、関係される方々の下に実際に足を運んで話を伺い、調査されている。私も、2020年末に建築家吉田鉄郎の企画展「吉田鉄郎の近代」が東京で開催されるにあたって、文化庁等から調査に来県された際や、最近では福野・山田家の南砺市ブランド戦略部・文化世界遺産課の調査に同席させていただいたが、その折の大村さんの探求心と共に、吉田鉄郎や山田家の方々へ注ぐ、温かいまなざしを感じた。

大村さんは『馬場はるとのその周辺』の「あとがき」で次のように述べている。「一冊の本に挑むとき、自分の非才を知りつつも出会ったことの面白さ、なぜ出会いなぜこうなったのか、ということの謎解きを書き綴りたいと思った。……人は一人では生きられないということ、多くの出会いが素晴らしい成果を生み出すことを教えられた。……私にとっても多くの出会いがあった。出会いは至福の時間であり、歴史の流れを泳ぐ喜びがあった。…」大村歌子さんの研究姿勢であろう。

現在、コロナ禍の中で人と人との繋がりが希薄になりつつある。一方で、郷土の良さを見直し、未来へつなげようという郷土教育の重要性が叫ばれている。今日のこのような状況の中で、大村歌子さんの歩みは翁久允賞に十分値するものとする。

推 薦 書

推薦人 太田久夫

氏 名 大村歌子
出身地 富山県中新川郡水橋町(現富山市)
生年月日 昭和 17(1942)年 8 月 3 日
職 歴 林建設工業株式会社に勤務歴あり
所属団体 富山八雲会 富山近代史研究会 富山連句協会
主 宰 大井冷光を語る会 サロン梅の湯木曜俳句会

業 績

I. 著 書

ぬくもりへの追慕 櫻井家の歴史	大村歌子刊	2004 年 5 月
櫻井家の俳諧 文器・秀甫・定爾・松甫	櫻井家の俳諧刊行会	2004 年 10 月
櫻井家の俳諧 文器・秀甫・定爾・松甫	桂書房	2005 年 9 月
角川源義と父祖の地	大村歌子刊	2019 年 4 月
馬場はるとその周辺	大村歌子刊	2021 年 3 月

II. 編集図書

石黒宗麿の詩文 西永仁義著	水橋郷土史料館	1982 年 10 月
水橋の歴史 第 1 集	水橋郷土歴史会	1989 年 8 月
水橋の歴史 第 2 集	水橋郷土歴史会	1992 年 2 月
水橋の歴史 第 3 集	水橋郷土歴史会	1995 年 3 月
水橋の歴史 第 4 集	水橋郷土歴史会	1997 年 3 月
天の一方より 大井冷光作品集	桂書房	1997 年 7 月
うまれた家 大井冷光の童話	大井冷光を語る会	2001 年 7 月
水橋の歴史 第 5 集	水橋郷土歴史会	2007 年 7 月
縁 五島健三の青春	いそべ桜蔭書屋	2009 年 3 月

縁 清き流れに 追悼 広瀬龍夫 いそべ桜蔭書屋 2012年 10月

*『水橋の歴史』第1集～第5集は、会員・会員以外10人余りの論稿をまとめる編集を担当するとともに、大村自身「水橋の売薬」(第1集)、「神保長職の制札と上杉謙信勢の制札」(第2集)、「水橋文学散歩 小寺菊子・大井冷光」(第3集)、「投影—彫刻家高桑文雄」 「蚊帳貸し商売」 「尾島桑次郎日記(解説)」 「童話作家冷光の電子ブック発刊まで」(第4集)、「米騒動の発端は水橋」 「水橋東西ひとめぐり」(第5集)の論考を発表している。

III. 編集雑誌

マリオネット 創刊号 富山児童文化研究会 2011年 11月

マリオネット 第2号 富山児童文化研究会 2013年 8月

マリオネット 第3号 富山児童文化研究会 2015年 1月

*大村は、全3冊の編集を担当するとともに「爺やの奮闘」「ヴォイス」(創刊号)、「とうちゃんは江戸三度」「童話作家大井冷光」(第2号)、「ボクはなっちゃんのオルガン」「岩次郎奔る」「母の木ノ寺 長念寺十七世坊主ノブさんのひとりごと」(第3号)と作品・論考を発表している。

木漏れ日 第1句集 サロン梅の湯木曜俳句会 2012年 7月

木漏れ日 第2句集 サロン梅の湯木曜俳句会 2014年 8月

木漏れ日 第3句集 サロン梅の湯木曜俳句会 2016年 8月

木漏れ日 第4句集 サロン梅の湯木曜俳句会 2022年 1月

*俳句と連句の合同句集である。水橋の伝統俳句を受け継ぎ大村主宰にて継続している。またサロン梅の湯にて、一人芝居の脚本をつくり、公演をしている。演目は「小寺菊子」と「関脇玉椿」の2本。

IV. 所属団体機関誌発表論稿

A. 近代史研究(富山近代史研究会)

29号 2006年 3月 童話作家大井冷光の周辺

32号 2009年 3月 南薫造画伯と五島健三、そして小寺健吉とのこと
—垣間見る小寺菊子の晩年—

34号 2011年 3月 童話作家・登山家大井冷光の資料を追って

36号 2013年 3月 大井冷光の周辺・遠近

- 38号 2015年3月 佐々木平兵衛を知っていますか(1866～1931) 東水橋
町長、県会議長、伏木町長をした人
- 39号 2016年3月 佐佐木雪子さんのこと 富山県二代目知事・藤島正健の
長女 歌人・国文学者 佐佐木信綱夫人
- 40号 2017年3月 初冬の東京探訪
- 41号 2018年3月 水橋橋まつり 150年祭の系譜
- 43号 2020年3月 何かを求め現場に立つ 馬場はるつながり
建築家吉田鉄郎と福野山田家について
- 44号 2021年3月 『馬場はるとその周辺』を書き終えて

B. へるん倶楽部(富山八雲会)

- 創刊号 2003年6月 岩瀬・水橋紀行 小泉八雲とイエイツ そして尾島
庄太郎への旅
へるんさんようこそ
- 2号 2004年6月 富山八雲会を楽しむ ときにつながる八雲先生
- 3号 2005年6月 大井冷光の作品「つなみの前」について
- 4号 2006年6月 童話作家大井冷光の周辺 福野町五島家
- 5号 2007年6月 「乳母ざくら」の地へ
- 6号 2008年6月 八雲紀行 富久町から雑司ヶ谷あたりまで
岩瀬散策記念 半歌仙を巻く
「二つの珍しい祭日」を読んで
- 7号 2009年6月 八雲紀行 小泉八雲の落し物
- 8号 2010年6月 八雲紀行 土井晩翠と二つの彫刻「蜜」と「投槍」
- 11号 2013年6月 ある保守主義者
- 12号 2014年6月 八雲紀行 「食人鬼」に登場する夢窓疎石
- 13号 2015年6月 馬場家と井上準之助のこと 井上蔵相 へるん文庫
に立ち寄る
へるん文庫の変遷
- 15号 2017年6月 「馬場はるものがたり」を書きつつ
- 18号 2020年7月 富山八雲会設立をめぐって 八雲紀行備忘録

C. 早稲の香(富山連句協会)

24・25号 2018年4月 志田義秀と「東炎」
27号 2020年9月 角川源義と水橋の俳諧

D. その他の紙誌・単行本

水の文化 第9号 2001年11月 常願寺川・水橋川の河口にあった町「水橋」
夢限りなく 追悼 西宮満寿子 2004年10月 西宮正泰編刊

ぬくもりへの追慕 櫻井家の歴史
満寿子さんの俳句

北日本新聞 2005年1月14日朝刊 櫻井家の俳人たち 江戸期の活躍明らか
かに

郷土の文化 37輯 2012年3月 大井冷光をとりまく人々
とやま文学 30号 2012年3月 童話の里玖珠町から来客

歴史と観光 富山近代史の視座 2014年7月 山川出版社

馬場はるが残した遺産

郷土研究を志す人へ 2017年11月 富山県郷土史会編 桂書房刊

私の郷土研究 一資料を読む、現場に立つ一

とやま文学 36号 2018年3月 小寺菊子の晩年と父祖の地
(特集 女性作家として生きた二人 一小寺菊子・尾竹紅吉一)

水橋橋まつり 150年祭記念誌 2018年7月 水橋橋まつり協議会刊

「橋まつりを語る」3月20日座談会

とやま文学 37号 2019年3月 私の出会った井上江花

(特集 横山源之助・井上江花)

富山写真館 万華鏡 308号 2021年3月

海の豪商一道正屋 馬場家

馬場はるの出会った人びと

大村歌子氏は生地水橋をこよなく愛し、郷土研究に励んで、多数の論考を発表している。特に童話作家大井冷光については、精緻に研究を行い、冷光研究に必須の資料となっている。